



特集 石岡一高甲子園初出場 写真レポート

甲子園球場の応援席が、石岡一高野球部 2,000人の大応援団で埋め尽くされた日一

3月25日、阪神甲子園球場（兵庫県西宮市）で、第91回選抜高等学校野球大会、石岡第一高等学校と盛岡大学附属高等学校（岩手県）の試合が行われました。

球場アルプス席には、石岡一高の生徒と教員を始め、OB、地域住民など2000人以上が駆け付け、大応援団を結成。夢の大舞台に挑む球児たちに大声援を送りました。

それに応えるように、打線に定評のある実力校、盛岡大附属を相手に3回表でキャプテンの酒井淳志選手（3年）の内野安打の間に1点を先制。9回表に



は武田翼選手（3年）のセンター前ヒットで追加点をあげ、2点リード。しかし9回裏2死のところまで追いつかれ延長戦へ。岩本大地投手（3年）は計11個の三振を奪う好投を見せましたが、3対2で惜敗しました。

翌26日、午後4時24分着の特急ときわで石岡駅に帰ってきた球児たちを称えようと、多くの市民が集まり「よく頑張った。感動した。ありがとう」といった言葉が掛けられました。

甲子園から戻った翌日、石岡一高のグラウンドからは、早速練習に励む生徒たちの元気な声が響いていました。





(写真キャプション)

1 パブリックビューイング会場となった、石岡市役所2階会議室には、約200人の市民の皆さんが訪れ大声援を送りました。会場で観戦した殿塚麗さんは「甲子園という大舞台に立ったこと自体が本当に素晴らしいこと。全力を尽くして戦う子たちの姿が本当に誇らしかった」と目を細め語ってくれました。

2 会場では応援を盛り上げるため「がんばれ!! 石岡一高野球部」と書かれたスティックバルーンや応援旗を配布しました。赤ちゃん連れのお母さん、石岡一高に入学予定の中学生、石岡一高OBなど、会場に集まった幅広い年齢層が、心をひとつに、熱い声援を送りました。

心ひとつに、
みんなで応援できた幸せ。
感動をありがとう――

平成最後に、高校球児が見せてくれた勇姿。 そして新しい時代。令和元年の幕開けへ



(写真キャプション)

3 3月18日、石岡駅ステーションパークで行われた出発式には、平日にも関わらず200人以上の人が集まりました。選手たちは午前11時15分発の特急ときわに乘車し、甲子園に出発しました。

4 出発式では、メッセージカードや千羽鶴などが監督と選手たちに手渡されました。

5 3月26日午後4時24分着の特急ときわで帰ってきた高校生たちを出迎えようと、石岡駅には多くの人が集まり、花束が監督と選手たちに贈られました。

